

ゆうかり放送委員会提供

ゆうかりに乾杯

第53回放送の概要 (2012年8月25日放送)

パーソナリティ

さくら (安本久美子)
タロウ (佃 由晃)
なかちゃん (中嶋邦弘)

コアラさんの地域瓦版

アコちゃん (三木文子)



ミキサー

門ちゃん (門田成延)
一ノ瀬悟

相談役

わだかん (和田幹司)

会計

小山俊則

(CM) エキストラ珈琲は、神戸で初めてのコーヒー豆焙煎問屋として、大正12年に誕生。その伝統ある個性的な存在は、高級コーヒーを厳選し、評価に値する味を提供する店として、広く皆様に愛されています。大河ドラマ「平清盛」にちなみ、清盛コーヒーを販売中で、「清盛茶屋」の運営にも携わっています。本日はエキストラ珈琲様 (電話 078-671-0135) のご協力を頂きました。

(CM) 「7つ 8つ 9つ どう といち」でおなじみの「十一の奈良漬」は、「灘の生一本」の酒粕に漬け込み仕上げた自慢の味です。食事の締めくくりに、サンドウィッチや巻寿司などにも御愛用ください。今日は、「十一の奈良漬」黒田食品さまの御協力を頂きました。

1. オープニング

さくらさんの友人の孫が次のようなつぶやきをしました。「ジンベイザメがスカイツリーを食べようとしてる〜っ。小さいのはアジだよ！」夕暮れの雲を見てこのようにつぶやける感性はとても素晴らしいと思う。今の時期夕暮れ時に空を見ると、入道雲が青空を背景にとてもきれいに見える。30度を超える気温が普通になってきた今日この頃の気候が、新鮮な風景を提供しているように感じます。雲を見て感動を覚える感性を育ててほしいと思います。



2. ゲストコーナー (1): 兵庫県神戸県民局 山口昭彦さん (64 陽会)

本日のゲストは、兵庫県神戸県民局県民室主幹兼県民福祉課長の山口昭彦さんです。菊水小学校、湊中学、兵庫高校、中央大学法学部に進まれた。高校時代は当時流行っていた柔道一直線に憧れ、柔道部に入った。父親は柔道をしていたし、柔道で大学に入った従兄弟もいた。入部したが高校2年の夏に、慢性的な肉離れを起こし、無理をして練習した結果治らず、普通に歩くだけでしんどくなり、受験勉強に切り替えた。社会人になってからは少林寺拳法をしたり、今は水泳をしている。心に残った先生は、柔道を教えてもらった篠原先生。この先生は天理大学で活躍され、噂では1週間で黒帯をとったと言われるほど凄い先生であった。また柔道はされていないが柔道部顧問の恋野先生がいます。先生の息子さんか吹奏楽をされている。お二人とも兵庫高校出身である。中学から柔道を始め、高校途中で柔道を辞めた時、顧問の恋野先生から声をかけてもらった結果勉強に専念出来た。大学に入学すると1年生の夏休み終わりころから司法試験の勉強が始まり、引き続き4年間ずっと勉強をしていた。土日含め朝9時

から夜9時まで食事以外ずっと勉強していた。東京には全国から勉強をする人が集まるため、自分の力の無さを感じ、学生が遊べる夏・冬休みをずっと勉強していたので、性格的には大きな挫折を経験しマイナスの影響を受けたかもしれない。

社会に役立つ仕事がしたい、と県庁に入り、1999年に淡路の夢舞台オープン1年前に、(株)夢舞台の営業課長に就任した。国際会議の仕事をとってきてウエスティンホテルに宿泊してもらう仕事をしてきた。39歳で転職したような状態であったが面白い4年間であった。この仕事は自分としてもやりたいと思った仕事であった。



2002年ワールドカップの時に、ベッカムのイングランド代表チームが、ウエスティンホテルに宿泊した。ホテルは厳重な警備で、ベッカムにはSPがつき、決められたコースを毎日プレスセンターに向かうが、その途中で、眼鏡をかけて少し笑って立っている自分がベッカムを見ていた。彼は「いかにもジャパン」みたいなスタッフが立っている、と見ていたと思う。何回か顔を合わせているとウインクしてくれた。滞在中の2週間余り毎日ベッカムを見ていた。

3. ミュージックコーナ：虹の彼方に（ベン・ウェブスター）

4. ゲストコーナ（2）

4年間、夢舞台で勤務後、西宮の兵庫県立芸術文化センターでコンサートやお芝居を作る制作担当の課長をした。演劇や音楽の専門家が気持ちよく仕事ができるように調整するのが主な仕事であった。自分自身はウィーンバレエアカデミー、ポリショイバレエアカデミー、北京舞踏楽院などの招聘を担当した。当時のロシアを訪問したが（米ソ冷戦のイメージもあり）怖い国と言うイメージを持っていた。モスクワに行く時は家族と今生の別れという気分であった。



チェチェン共和国のテロがあり、モスクワの劇場で100人以上が亡くなった直後で、空港は自動小銃を持った軍隊が警備していたのでびっくりした。モスクワではロシア語のみという感じで英語も殆どしゃべれないので、言葉はあまり通じなかったが、彼らも日本人と同じ感覚、同じ人間だと言う感じを持てた。それが芸術の力、つまり世界中に芸術が広まったら戦争は起きないと感じたきっかけであった。ロシア音楽を聴いて感動するように、言葉は必ずしも必要でない。

契約交渉については行く前にFAXでやり取りし、仮契約の段階であったが、行くと一からやり直しになりこれが世界標準と思った。ハードな交渉であったが、お互いに契約を成立させたいと言う気持ちがあったので成功した。バレエ団が来日した時は6回ほど関西公演について廻った。バレエをやっている子供は裕福な人もいるが、そうでない人もいる。世界中から集まった優秀な子供達はそれぞれの家族、一族を背負って来ているので、自分が大学時代に「司法試験に挫折」したことに重ねて、子供達に気持ちが入ってしまった。貧しい家庭に生まれている子供なら、自分がバレエで頑張る親、兄弟を楽にさせようという思いが伝わってきた。2週間ほど公演した後、成田空港から見送ったが、お互いが見えなくなるまで振り向いたりしてくれて涙が止まらなかった。

その後バレエから兵庫芸術文化センター管弦楽団（PAC）の担当に変わった。PACは当時8カ国から平均27歳のメンバーが集まり、指揮者は佐渡裕さんである。佐渡さんは桂三枝さんが世界一大きな指揮者と言ったくらいで身長1m87cm、フランス、ドイツ、イタリア、日本で活躍され（小さな体の日本人ではなく）



スタイルも心も、スケールの大きな世界的指揮者である。また小澤征爾さん、バーンスタインの最後の愛弟子であった。10年前に初めてお会いした時、ホテルの経験を生かし、精一杯のおもてなしをしたところ気持ちが通じたのか、コンサートが終わり舞台の袖で控えていると、裏方の自分にも握手をしてくれ、大きな体を曲げて「ありがとう」と言ってくれた。凄い人だと思った。

東日本大震災に対する芸文センターの活動としては、劇場と楽団自体が震災復興のシンボルという大切な使命を持っていたので、震災直後から劇場での募金活動、佐渡さんが被災地に入り演奏したりしている。自分も楽団メンバーを連れて2回被災地に入り、PACとスーパーキッズの両方が被災地訪問をした。昨年、仙台市の児童館、気仙沼高校、石巻好文館高校を訪問した時、余りの被害の大きさにかける言葉がなかった。神戸から来た事を告げると、吹奏楽部の部長が、自分たちも神戸のように必ず復興するという言葉をかけてくれた。演奏後、石巻の最も被害の大きな地域に行ったが、そこは果てしなくガレキの山で、声も出なかった。マレーシアから来た女性が芸文センターの持つ使命をものすごく感じていた。東日本大震災の被災地に対して、今後引き続き支援活動を継続していくことは劇場や楽団の使命であり、その原点を忘れると存在意義はなくなると思う。

最近、芸文センターについて書いた「チケットを売り切る劇場」という本が発刊されている。経営がうまくいく秘密は、オープン前から佐渡さんが西宮や神戸の小学校の音楽教室に行き、音楽に興味のない子供達に、たて笛を吹いたりして音楽の面白さを伝える活動を続けてきた。また佐渡さんが芸文センターを街の広場にしたい、と言う考えのもと、クラシックファンだけでなく、皆が（チケットを買わなくても）劇場に遊びに来てほしいとの願いから色々な無料イベントを開催している。例えば、2005年12月には「センターをお菓子の家にしたい」との佐渡さんのアイデアから、商工会議所の人に話をしたら、パティシエのコンテストが年1回あるのでそこでお菓子の家を作ってもらい、それを劇場に展示したらと言われた。そして出来あがった100個のお菓子の家をロビーに展示した。小さな子供とそのお母さんが見にきたり、学校の遠足コースになった。そのような積み重ねの結果であると思う。またワンコインコンサートも素晴らしい取り組みである。

5. あこちゃんの地域瓦版

今日のはあこちゃんがお休みのため、放送メンバーで会計担当の小山さんが、最近東北方面を旅行してきたのでその話を伺います。

小山さんのグループは、毎年盆明けにフェリーを使って旅行をしている。大震災があったが特に何もしていないので、今回は復興に少しでも役立つようにお金を使うことを目的にした。今年は敦賀からフェリーで秋田に渡り、バスをチャーターして仙台まで南下した。岩手から仙台に近づくにつれ、美しい緑の景色から、松の木の立ち枯れや、何もない田んぼなど茶色の景色にガラッと変わっていった。名取市閑上地区に入ったが何もなくひたすら茶色の風景が広がっていた。こんもりした丘のような物があちこちにあるので運転手さんに聞いたところ、今後復興で地上げした時の高さであると教えられた。日和山という漁師さんが海を見る場所よりはるかに高いものであった。近くの被災したお寺に伺うと、墓石は全て倒れ、墓石にビニール袋が置かれていた。それは墓地の復興めどが立たないので、お墓からお骨を取り出し入れているとのこと。同行した仲間の中杉和尚はひたすらお経をあげていた。



6. 来月のゲスト

来月はNPOシニア生甲斐ネット副理事長 川本正明さん（42陽会）にお越し頂きます。

番組に対するご意見、ご感想はこちらまで：yuukarinikanpai@gmail.com